

令和3年度第2回れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会 議事概要

日時	令和4年2月10日（木） 14:00～16:00
場所	オンライン会議
出席者	別紙参照

1 開会

2 挨拶

高知市（中澤副市長）

3 議事

受田座長挨拶

- ・ コロナの第6波はまだ続いていく様相であるが、かれこれ2年程このような状況下であり、れんけいこうち広域都市圏に取り組んできた4年間のうち、半分がコロナ禍となっている。
- ・ 本日は、区切りとなる5年目の令和4年度に向けた事業の進捗状況及びPDCAの確認、また、令和5年度から始まる第2期ビジョンの方向性についてご議論いただきたい。特に第2期に向けては、コロナを踏まえつつ、れんけいこうち広域都市圏の枠組み自体を抜本的にゼロから考え直していく必要があると思っている。
- ・ コロナを踏まえてローカルトランスフォーメーション（LX）を進めていく必要があるのではないかと様々な席上で申し上げているが、これには、地域を変革するという意味のほか、地域から日本を変えていく、あるいはグローバルに持続可能性を訴求していくという意味も含んでいる。このれんけいこうち広域都市圏の取組が、LXに比するような、希望に満ちたイノベーティブなものとなるように、活発なご意見、ご議論をいただき、未来に繋げていきたい。

事務局から資料説明 「れんけいこうち広域都市圏ビジョンの進捗状況について」

以下、委員意見

杉本委員

- ・ 令和5年度からの新しい計画に向けて、各事業にどんな課題があるのか、KPIはこのままでいいのか、これまで取り組んできた中での手応えや課題を踏まえた方向性についてなど、PDCAでは記述があまり見られない。例えば「コロナ禍での観光を見直して…」など、大きな括りで見えてきた各事業の課題等を我々にも見せていただいたうえで、次に繋げる取組をしてはどうか。

⇒事務局（総務部）

- ・ 2期目の考え方等は後程説明させていただくが、今回の懇談会では第2期ビジョン策定に向けた考え方をお示しすることとし、1期目の総括等については次回のビジョン懇談会までに行う予定である。
- ・ 振り返りの過程では、課題も含めて2期目をどうしていくか、また、既存事業にない分野で取り組める新規事業がないかといったことについて、市町村の意見も踏まえて総合的に調整しつつ、第2期ビジョンを固めていきたいと考えている。KPIに関しても、達成状況が100%を超えたものは上方修正するなど、毎年度振り返りや見直しをしながらビジョン改訂を行っており、コロナ禍で観光に落ち込みが出ていることなども踏まえた評価等をお示しつつ、総括や第2期の取組等を報告したいと考えている。

受田座長

- ・ 杉本委員のご意見は、PDCAの1サイクルの周期をより短くして、しっかりとしたチェックアクションをしていただきたいとの趣旨であり、事務局は、毎年度PDCAを小さく回している認識のもと、第2期に向けては、1期目の5年間で大きく振り返り、課題を整理することで、大きなPDCAを回していくスタンスだと思う。

杉本委員

- ・ 以前から申し上げていることだが、「何回これを開催した」といったアウトプット指標ではなく、そこから何が得られたかというアウトカム指標を盛り込んでいただきたい。数値化できなければ、定性的なものでもよいので、大きな目線で成果を表現していただきたい。

黒笹委員

- ・ 第1期をまとめるうえで一番の大きな事件はコロナだと思う。第2期ビジョンにコロナを意識した形での取組を入れることは当然ながら、振り返りの過程でも、コロナにより、高知市と33市町村の連携のあり方など、様々な意味で影響があったと思うが、どうやってクリアしてきたのか、あるいは、全く影響がなかったのか。その辺りの分析や意見をお聞きしたい。

⇒事務局（総務部）

- ・ れんけいこうち広域都市圏の取組では5年間のうち、半ばあたりからコロナの影響を受けている。インバウンドを含む観光面で、特に観光需要や人の流れが抑制されるなど、各事業はもとより、経済にも影響を及ぼしている。
- ・ コロナについて予期せぬファクターとして総括し振り返りを行うが、コロナ禍だからこそ、色々とできた面もある。このオンライン会議も含めて、各事業でオンライン化・デジタル化の導入が進み、ブラッシュアップに繋がった。また、圏域全体での取組にはどうしても距離的な課題が生じるが、デジタルの活用によりその弱みもカバーすることができた。
- ・ 2期目の検討にあたっては、そういった効率化の面も含めて見直していきたい。

井奥委員

- ・ 防災リーダー育成事業について、参加者要件の緩和と、サテライト会場の設置に係る記載があるが、高知市では順調なようだが、実績から見るにサテライト会場のニーズが非常に少ない。K P I 達成率が 60%程で留まっているので、特にサテライト会場での参加者を増やす工夫を高知市の方からも関係市町村に働きかけていただきたい。

社会福祉協議会でも要配慮者への避難支援計画策定を福祉施設などと連携して支援しており、こういった防災リーダーの育成は非常に重要だと考えている。

- ・ 次に、統計データ活用事業について、事業概要に「各種統計データの活用に関するプラットフォームとしての役割を担う研究会組織の設置」とあるが、この研究会組織の具体的な活動状況はどうなっているのか教えていただきたい。

⇒事務局（防災対策部）

- ・ サテライト会場の参加者数を増やすことについては、それぞれの会場の市町村にお願いする部分が多いと考える。
- ・ 一方で、今年度もサテライト会場への配信を行ったところであるが、映像と音声不安定であるというご意見をいただいた。本市でも確認したが、その環境で 2 時間近い講座を受講するためには、課題があると認識している。
- ・ 資料 4-2 に防災リーダー育成事業の予算を掲載しているが、令和 3 年度の 630 万円に対して、令和 4 年度は 890 万円となっている。実際には 800 万円程の予算となる見込みであるが、前年度との差は、職員では対応が難しい音声、映像の質を向上させるために委託料を増額したものである。高知市としてもネット配信の環境を向上させることで、サテライト会場の参加者により質のいいものをお届けしたいと考えている。

⇒事務局（総務部）

- ・ 統計データ活用事業については、デジタル化推進の流れやオープンデータ化への対応を見据え、市町村職員を対象とした人材育成を行っている。
- ・ 直近では、四国経済産業局講師による R E S A S 研修や、県による産業関連表研修、市町村から要望のあったアンケートの設計や分析方法に関する研修を行いながら、デジタル化に適応した職員の育成に取り組んでいる。

蝶野委員

- ・ この取組がスタートして 4 年目ということで、大体こういった節目にあたっては、色々なことをやっていこうという流れになるが、「とりあえずやりましょう」で負担を増やしていくと、人的リソースが有限である以上、すべてが薄い内容で進んでしまう可能性がある。どうしても継続したいものは小さめの P D C A を回していき、やめた方がいいと思われるものは勇気を持って撤退するといったことを繰り返しながら、取組全体の大きな P D C A を回していくことも考えていただきたい。

⇒事務局（総務部）

- ・ 2期目を考えるにあたり，1期目の振り返り・事業検証をしていく中で，単純に事業をやめるのではなく，これまでの成果を次へどう繋げていくかも見据えながら，発展的に事業を解消するという事は当然ありうると考えている。既存事業を残したまま新規事業も追加すると市町村職員の負担が増えるので，そういったことも含め，スクラップアンドビルドではないが，総合的にどのように事業展開していくのか考えていきたい。

受田座長

- ・ K P I，P D C Aなど全体的なご意見もいただいているが，この点については，この後の項目でより深く，また，様々な視点でご意見をいただきたい。

事務局から資料説明 「第2期れんけいこうち広域都市圏ビジョンの策定について」

以下，委員意見

黒笹委員

- ・ 他圏域では連携中枢都市圏制度に先行的に取り組みされており，高知は少し遅れて第2期に向かっている。この遅れを効果的に使い，他圏域における第2期の取組を参考にしながら，時代の流れを読んだビジョンにしてほしい。
- ・ また，このタイミングだからこそ，ポストコロナ・ウィズコロナの時代により密着した形でビジョンを作ることができるのも大きな利点であり，他圏域よりもより最新の事情を取り入れた特徴のあるビジョンを描いてほしい。
- ・ 資料6の「第2 策定に当たっての考え方」の「3 策定に当たっての方向性」において，コロナに対するれんけいこうちのスタンスに高知らしさ，オリジナル感がほしい。また，「(1) 総論」のコロナの記述について，言葉としては良いが，コロナの影響を極力少なくするためにはどうしたらいいかという守りの印象を受ける。コロナの影響で都市圏から人が流出し，人が地方に動くという新しい人の流れが加速しているため，これをもっとオフエンシブな機会と捉えた，高知らしいビジョンにしてほしい。
- ・ れんけいこうちは他圏域とは異なり，県内全域を圏域としているので，その点もアピールポイントとして捉えてよいのではないかな。
- ・ こうしたことを議論する場を改めて設け，しっかりと議論することが必要ではないかな。

受田座長

- ・ このビジョン懇談会は，第2期ビジョンの策定懇談会の位置付けにもあり，まさしくこの場が第2期ビジョン策定に向けた協議の場である。7月から8月にもう一度懇談会を開催し，その後パブコメを実施して，年明けには第2期ビジョンが完成するという説明があったが，そうすると作り込みの部分で相当ブレインストーミングしていかなければ，高知の色，あるいは高知としてやるべきことが出てこないのではないかなということだが，いかがかな。

⇒事務局（総務部）

- ・ 今回お示しした資料は、あくまで第2期ビジョン策定にあたっての方向性、考え方の部分を整理したものであり、次回懇談会までの4～5か月の間、先ほどご意見をいただいた高知らしさも含め、第2期ビジョンの具体的な中身について他圏域の事例も参考にしながらこれから議論していくこととしている。
- ・ ビジョンの原案は、次回懇談会にてお示しする予定であり、委員の皆様には前段で随時内容を共有し、確認を取りながら進めていきたいと考えているので、よろしく願います。

中川委員

- ・ 前回の会議でもお伝えしたように、既存事業については、K P Iを含めてしっかりと検証をしていく必要がある。その中で撤退も含めた事業のふり分けをしていくべきである。
- ・ D X, G X, そして受田座長の話にあったL X, 高知県独特の視点、最終的にはS D G sにも繋がるかもしれないが、様々な視点での議論や捉え方をしていくべきである。

原委員

- ・ 第2期ビジョンを策定するにあたって、圏域全体で考えるきっかけになること、あるいは市町村の垣根を越えた連携がさらに実ることなどが、様々な面で複合的に発生することに意味があると思う。そうした観点を念頭に入れて各施策を考えていくと、これまでの取組を重視することが必要なものもあれば、違った視点で議論を重ねることで新たに連携していくべき取組が見つかるかもしれない。
- ・ 防災については圏域全体に関わる大きな課題であり、第2期でも防災リーダー育成事業を引き続き推進していくべきである。

ただ、防災人づくり塾の受講者が少ないことの要因として、1つ目に県の防災士養成講座と内容がバッティングしており、資格取得を狙っている方はそちらに流れていることが考えられる。県の講座は人気が高く、受講をお断りするケースもあると聞いている。そのため、資格取得をニーズとしない、地域の特色に合った、例えば体験型の取組を取り入れるといったことをされてはどうか。

2つ目に、事業のターゲットが明確でない。若年層をターゲットとするのであれば、教育委員会と連携する、あるいは職員向けの講座を拡充するなど、ターゲットを絞ってはどうか。

- ・ 資料にI C Tインフラ整備とあるが、高知県はある種、周回遅れの状態にある。単に整備をするのではなく、例えば整備後のメンテナンスや長寿命化といった、他自治体でもあまり取り入れていないようなことを、10年、20年先を見据えて議論をした方がよい。

吉田委員

- ・ 資料6－別紙2「圏域人口の状況」について、移住組数は相当増えているにもかかわらず、人口減少に歯止めがかかっていない。人口減少に歯止めがかからないならば、住みやすい、子どもを産みやすい環境づくりといった、出生数を上げる取組を強化してはどうか。先般、岡山県の奈義町が、出生率2.81の「奇跡の町」として紹介された記事を見た。同町は人口

6, 100 人程度であり、圏域内の多くの市町村の参考になるのではないかと。

川淵委員

- ・ 二段階移住推進事業について、外向けの情報発信は大いに実施されているようだが、果たして受入れ側がどのようにこの制度を捉えているのか。受入れ側の意識変革であったり、情報提供であったり、そういった工夫も大事ではないか。
コロナの影響で実際に働き方が多様化しており、首都圏の人口が地方へ移っている。受け入れ側の意識変革によって、高知らしさというところにも繋がってくるのではないかと。

野並委員

- ・ 資料5-1のビジョン改訂案にある「生活関連機能の状況」における地域医療の実態として、産婦人科医の偏在といった内容が記されている。この表だけ見ると、医師数は高知市内である程度足りていて、周りの市町村は足りていない。そのため高知市から医師を回す必要があるという内容に取れるが、実情は、医師の人数だけが問題なのではなく、医師の年齢的なことが関わってくる。普通分娩に関わっている医師の高齢化により、近い将来、高知市近辺で普通分娩ができなくなるのではという話もあり、それを補い合うための環境づくり、連携がますます必要になってくる。
- ・ 小児科医の高齢化も同様に深刻で、夜間の小児救急・急患センターに協力できる医師があと1名いなくなれば、もう回らなくなるといった状況にきている。そういった部分で他所からの連携をより強化していかなければならない。これは高知市医師会、高知県医師会だけで解決できる問題ではないので、行政も含めて取り組んでいただきたい。
- ・ 「今までできたからこれからもできる」ではなく、実は地域医療が相当危ない状況にあるという危機感を持って、どのように連携していくか考えていく必要がある。

受田座長

- ・ 医療現場の実態について、極めて重要なお意見をいただいた。現状維持も危機的な状況になっており、様々な生活を支える面に対応しなければならないことがたくさんある。そうしたことに、れんけいこうち広域都市圏で解決に向かい協議をすべきとのご意見だった。

井奥委員

- ・ 資料6の「第2 策定に当たっての考え方」の「3 策定に当たっての方向性」において示されている総論でSDGsの考え方を導入されており、非常に賛成できる。これを取り入れる際、現在の事業のKPIではSDGsに繋がるようなものがあまりないため、ぜひこの視点を持って、新たなKPIの設定を含めた見直しを検討いただきたい。特に高知県と親和性の高い「気候変動問題」、「海の豊かさ」、「子どもの貧困」といった部分を重点的に検討していただきたい。
- ・ 資料6-別紙3の「3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上」の分野において、地域医療、介護、福祉が挙げられているが、今声高に叫ばれている健康寿命の延伸に繋がる、フ

レイル予防や認知症予防等に重点的に取り組むような視点を取り入れていただきたい。

- ・ 野並委員からご意見があった産婦人科の医師数問題については、少子化対策県民会議でも問題提起されていた。非常に危機的な状況を将来迎えるという視点を次のビジョンに取り入れていただきたい。

岡林委員

- ・ 新規事業提案にあたっての留意点として「既の実施している取組でないこと」が挙げられているが、既の実施している取組でも、伸びる要素があるものは継続して実施していく必要があるのではないか。
- ・ また、「取組の効果が圏域全体に広く波及すること」という点についても、令和5年に牧野富太郎氏を題材にしたドラマが始まることが決まり、観光面で非常に大きく期待されるが、ドラマの舞台はおそらく高知市、佐川町、越知町が中心となるものと思われる。限定された地域の取組であっても、圏域全体に波及する可能性もあるため、一部地域だけと捉えずに広い可能性がある事業として取り組んでいただきたい。

杉本委員

- ・ 資料6の「第2 策定に当たっての考え方」の「3 策定に当たっての方向性」において示されている総論と各論について、就職氷河期の方の2040年問題やインフラに触れており、それぞれ重要であることは理解できるが、順番をつけているのか疑問に感じた。
- ・ また、コロナへの対応として、「行政・社会システムを見直す視点を持って」とあるが、一体何をやるのかが見えてこない。総論と各論の間などに中項目を追加すれば、イメージがより伝わりやすいのではないか。
- ・ 総論が3つ示されているが、羅列するのではなく、大きな項目一つ一つを柱立てして、その下に各論を具体的に記載した方がよいのではないか。
- ・ 資料6－別紙3は縛られる文言になっているのかもしれないが、時代に合わせた文言の修正をしてはどうかと思った。例えば、行政における脱ハンコやオンライン上でのサービス、マイナンバーカードの普及など、これらを入れてほしいというわけではないが、そうしたものを念頭に置けばより様々なものが出てくるのではないかと。

坂田委員（徳重副座長代理）

- ・ 牧野富太郎氏の生涯を題材にしたドラマが始まるということで、様々な形で事業ができるのではないかと。また、アニメ産業を核としたプロジェクトも動き出しており、こうした大きな動きに合わせて、第2期ビジョン策定にあたっては、核となる事業をしっかりと置くことが重要である。
- ・ デジタル化、グローバル化、あるいはグリーン化も含めた様々な事業が出てきているが、それらをバージョンアップし、見直していくことが重要である。例えば持続可能な観光としてどのように高知らしいことができるか、そうした視点でぜひ検討をいただきたい。
- ・ 県においてもデジタル化、グローバル化の視点で様々な施策の磨上げを行っている。そう

した県の事業との連携，あるいは一緒に実施していくこともあると思うので，事業を組み立てる中で協議できる場を設けていただきたい。

受田座長

- ・ 第2期ビジョン策定に向け，根幹となるご意見や，今後作り込む際の全体のアウトラインに関しても極めて有意義なご意見をいただいた。特に，医療の現場での危機的な状況については，今後，れんけいこうち広域都市圏でどのようにそれに立ち向かっていくのか，極めて重要な内容になるのではないかと感じた。

⇒事務局（総務部）

- ・ 防災，出生率，産科医，観光，SDGsなど，貴重なご意見をいただいた。産科医の件は担い手・後継者不足という点で他の分野にも繋がると思う。SDGsについては，第2期ビジョン策定時に，各事業との関連性を整理することを考えている。いただいたご意見については，各所管課と議論して固めつつ，委員の皆様にお示ししていきたい。
- ・ 県のご意見については，当然県の施策と連動して進めていくことになるため，情報共有を図りながら，役割分担を含め協議させていただきたい。
- ・ 本日以降も，新たなご意見等あれば随時事務局まで願います。

受田座長

- ・ 第2期ビジョンの策定にあたっては，総論的な部分と，各論的な部分を，縦糸と横糸で織りなしていかなければならない。特に各論には，野並委員のご意見にあったように，現状維持が困難な部分については，れんけいこうち広域都市圏の枠組みをしっかりと生かすきれないかという視点で，市町村の垣根を越えて全県的に取り組んでいく，そうした仕組みづくりへと昇華していただきたい。それが人々の暮らしのセーフティネットを支え，豊かな暮らしへと繋がり，高知への移住の魅力を訴求していくうえでも重要な柱になると思う。この点では，技術的な革新もうまく取り込んでいくことが重要である。
- ・ 第1期のれんけいこうち広域都市圏の枠組みにおいては，人口ビジョンの実現に向けてという手法的な部分が非常に重要な視点であった。一方，本日の様々なご意見を受けて私自身が感じたことは，「人生100年時代」と言われる中で，生まれてから100歳の寿命を全うするまでに，高知県でどのような暮らしを営んでいくのかという視点で，れんけいこうちの枠組みを見ていくと，どのような第2期が描けるのか。これが高知の魅力のデザインに繋がるのではないか。
- ・ 地方分散型社会をアピールするのであれば，高知市に人口の多くが集中している高知県自体がもっと分散型社会にならなければならない。そのためには，脆弱な部分を強化していくべきであり，それがSDGsの持続可能性という部分にも繋がる。
- ・ 新しいアイデアを盛り込みながら，第2期のれんけいこうち広域都市圏のあるべき姿を，時間をかけてしっかりと描いていただきたい。

議事終了

総務部長挨拶

4 閉会